

【旭区】令和 8 年第 2 回区づくり推進横浜市会議員会議 議事録

開催日時	令和 8 年 6 月 11 日 (木) 15 時 00 分 ～ 16 時 30 分
場 所	旭区役所新館 2 階 大会議室
出席者	【座長】佐藤 茂 議員 【議員：5 名】こがゆ 康弘 議員、大岩 真善和 議員、くしだ 久子 議員 木内 秀一 議員、増永 純女 議員 【旭区：24 名】堀口 和美 区長、田畑 哲夫 副区長、 宇多 範泰 旭消防署長、 山本 千穂 福祉保健センター長、 森下 太幹 福祉保健センター担当部長、 嘉悦 明彦 福祉保健センター医務担当部長 岡本 栄里 旭土木事務所長 ほか 関係職員
議 題	【議題】 令和 8 年度旭区個性ある区づくり推進費の執行計画について 【報告】 寄附受納について
発言の 要 旨	【議題】 <u>1 令和 8 年度旭区個性ある区づくり推進費の執行計画について</u> 大岩議員：「GREEN×EXPO 2027 参加促進事業（P26）」について、横浜グリーンエキスポに、開催区である旭区としてどう取り組んでいくのかが非常に重要と思っている。ポスターやバナーなどの活用について商店街などでどのように取り組むのか伺いたい。 堀口区長：駅前の街路灯のポールにフラッグがついているが、これはやはり駅を降りると自然と目に入ってくるのでぜひ旭区でやりたいなと思っている。 大岩議員：可能であればぜひ調整して実施してほしい。やはり区民に参加いただくために自分事化することが大変重要と思っている。これから夏祭りなどいろいろ地域のイベントが行われる。その地域のイベントが行われる際に横浜グリーンエキスポと連携し

て冠をつけるなど色々なやり方があると思うが、連携して地域のイベントもやっているとなると、もっと地域の方々も一体感を感じると思うし、自分ごと化が進むと思う。関係機関との調整が難しいかもしれないが、この点についてどう考えるか伺いたい。

堀口区長：地域で行われているイベントに冠をつけることはできないのかということ、昨日の区長会の中で私から質問し、現在関係局等で調整中となっている。今後、どうすれば可能になるかという方向で考えてほしいということを伝えている。

大岩議員：ぜひ地域のイベントと連携して、冠がついたイベントに来た人の人数も横浜グリーンエキスポの関係の数に入れられるとか、そういう話になってくると思う。有料来場者は1000万人、ネット等様々なイベントに参加している人数でも500万人という目標があるので、そういう方向に持ってくれるようお願いしたいと思う。旭区で言うとズーラシアとの連携も重要だと思う。ズーラシア行きのバスが出る鶴ヶ峰で何をするのかが重要になってくると思うが、そのあたりを伺いたい。

堀口区長：来年の今頃は多くのお客様が日本中、そして世界中からお見えになると思っている。例えばズーラシア限定のトゥンクトゥンクとオカピのコラボグッズがあり、とても人気がある。緑の協会に対しても、何ができるかなという提案をさせていただいたところ。例えばあさひくんとトゥンクトゥンクとオカピとのコラボグッズの作成などは権利上難しいということだったが、提案させていただいた。他にはナイトズーラシアとの連携なども提案させていただいた。ズーラシアをもっとPRして、横浜グリーンエキスポを見た後にズーラシアを見てほしいという我々の思いは伝えている。

大岩議員：よろしくお願いいたします。

「災害に強い区づくり事業 (P6)」について、データに基づく政策形成という話があり、防災分野では市民が安心安全を実感している数値で、それをどう上るのかというのが大きな標になる。防災の話で言うと、これもやはり自分ごと化する・リアルに感じるというのが大変重要だと思う。被災地の現場に派遣された職員もいると思うので、防災訓練の際にその体験を話してもらうようなことがあったらよいと思うが、その点について伺

いたい。

小林真紀総務課長：防災講座については、集合講座、出前講座に加えて公会堂での事例紹介を例年実施している。このうち出前講座については、地域の課題を事前に把握し、地域ごとの内容で構成して実施している。地域から体験談を聞きたいというお声があれば、消防も含めて様々な職員が派遣されているので、出前講座の中で話す機会を設けることは可能と考えている。公会堂での事例報告会で広く皆様に実体験を伝えるということも考えられる。まずは試行で今年度実施できるよう検討したい。

大岩議員：ぜひお願いしたい。

まちづくりについて伺いたい。中期計画の中で、今回ダブルコアという戦略が位置づけされている。例えば空家や廃校の利用等の課題がある中、今後旭区を含めた郊外部にも力点を入れたまちづくりが必要になってくると思うが、この点について現時点の考え聞かせてほしい。

西澤美穂区政推進課長：ダブルコアは中期計画でも掲げ、郊外部と臨海部を両方盛り上げていこうということで進めている。これから横浜グリーンエキスポが開催され、その後の上瀬谷のまちづくりが進む中で、相鉄沿線の活性化により力が入れていくと思う。旭区についても鶴ヶ峰のまちづくりがある。令和15年度に鶴ヶ峰連立が完成する予定というところがあり、この上瀬谷のまちづくりと合わせて相鉄沿線を活性化できるように区としても、きちんと進めていくことが重要だと考えている。また、旭区は廃校が4校あり、廃校の活用をどうしていくのかというところも、非常に重要と思っている。今年度、ひかりが丘小学校と若葉台西中学校について、公募に向けて進めている。上半期にひかりが丘小学校、下半期に若葉台西中学校というスケジュールで公募できるように関係部署と連携して進めている。良い提案をもらえるように調整しながら、廃校やその周辺の団地、鶴ヶ峰、希望ヶ丘など、まちづくりも含め、このダブルコアで、市全体で盛り上げていく流れに乗って旭区全体を活性化させ、住みやすくどんどん人が入ってくるような街をどうやって作っていくかというのを、今後意見もいただきながら進めていきたいと思っている。

大岩議員：期待しているのでよろしくお願いしたい。郊外部なので森とか

公園とか緑もいっぱいある。それらを新たに利活用する方法なども取り組むべきではないかと思っている。

くしだ議員：「災害に強い区づくり事業（P6）」のうち、ペットの同伴避難・同室避難など災害時のペットの対応について、町内会や地域防災拠点の方では今年度はどんな感じで取り組みが進められるような状況なのか伺いたい。

河野誠生活衛生課長：同室避難について、旭区では今年度、同室避難場所の設置について積極的にご検討いただける地域防災拠点が1箇所あり、この拠点の支援のために調整を開始したところ。秋の拠点訓練で同行避難・同室避難を行いたいというご要望をいただいたので、実践に向けて動物愛護センターと連携して相談を受たり物資の支援を進めているところ。今後は、この訓練で洗い出される課題も含めて他の拠点で参考にさせていただくために、当該拠点にもご協力をいただきしっかりと事例を共有していきたい。

くしだ議員：非常に積極的に取り組んでもらい喜ばしい。地域の防災拠点での取り組みは、言うは易し、行うは難しみたいなどころがある。いざという時に、皆さんの身近で1箇所でもペットと一緒にいけるところがあるということが心の安心にもつながると思う。ぜひ良い事例にしていきたい。課題点は出てくると思うし、逆にやってみないと見えないことも多いと思う。ぜひ横展開ができるように、いい事例として進めていただきたい。同じく動物関係のことで、以前多頭飼育問題についてもお聞きしたが、最近の多頭飼育に関する状況について伺いたい。

河野生活衛生課長：多頭飼育について、旭区では現在相談等はない。また把握している案件もない。今後把握した場合は、猫のボランティアと協力して、時期を逸することのないように素早く対応していきたい。

くしだ議員：高齢者の方のケースがどうしても多いと思う。高齢者の方たちに関わる様々な団体や部署と連携して、早くに見つけて対応していけるよう体制を整えておいていただきたい。

「GREEN×EXPO 2027 参加促進事業（P26）」について、横断幕の新規設置について記載があるが、これは全部で36か所設置済みで、もう少し増えるという解釈でよいのか。

西澤区政推進課長：すでに横断幕を保土ヶ谷バイパスや歩道橋等で設置しており、さらに小学校等でも設置している。白地バックで少し字も小さく目立ちにくいところもある。少し華やかなデザインにしたいと思っており、青地バックでトゥンクトゥンクも載った形で新しく横断幕を作り、同じく歩道橋や小学校、区役所にももう少し多く掲出して多くの人の目に留まるような形にしていきたい。

くしだ議員：人目を引くことが大事だと思う。関係機関と調整し、より盛り上がるような、見て行ってみたい、なんだろうと思うようなものにしていただきたい。

今、横浜市で企画しているミックス球根花壇について、地元の公園や鶴ヶ峰の駅前、ズーラシアのバス停のあたりも含め、区としても連携して一緒に参加できないのか伺いたい。

西澤区政推進課長：大きな公園と、会場の方で一斉にやると聞いている。旭区の方に参加いただいたり、旭区内のどこかでできないかといった点について関係部署と話をしてみる。

くしだ議員：連携ができると地域の盛り上がりもできると思う。上手く話を進めてほしい。

空家について、旭区にも特定空家があり、高齢化も進んでいる中で、横浜市全体の課題だが、旭区でも大きな課題と思う。今、空家対策はどのような状況か伺いたい。

西澤区政推進課長：空家問題は全市でも大きな問題で、特に旭区は昨年度の空家に関する相談件数が80件と、18区でも最も多い状況だった。特にこれから暑くなってくると樹木繁茂の相談がかなり多く寄せられる。空家の問題は基本的には所有者の方にご対応いただくということになるので、ご相談があった場合は区役所で所有者を調べて通知を送るという対応になる。通知を送付して返信等がある割合は約50%、半数ぐらい返信がある状況。その状況を踏まえ、引き続き経過観察をしたり、売却するという回答があれば、そこで観察を終了するという対応をしている。特に周辺への著しい影響が見られる場合は、特定空家に認定する方向となり、特定空家に認定された後は建築局で対応していくという流れになる。旭区では、令和元年から7年の累計で特定空家が43件認定されており、そのうち26件が改善されている。そのため、現時点では区内に17件の特定空家があるという

状況。区としても令和5年に三井住友信託銀行と協定を締結し、空家になる前の段階から流通促進に向けた仕組みを作っているが、相談実件数が増えていない状況。この仕組み自体がうまく知られていない可能性もあるので、今年度連合の定例会等でも説明をしながら、活用していただけるように図っていきたい。また市全体でも様々な取組を行っており、ワンストップ窓口や、相続する子世代向けに空家になる前から検討ができるLINEの公式アカウントなども立ち上げており、こうした取組も所有者の方等にお知らせしながら、引き続き効果的な空家対策を検討しながら進めていきたい。

くしだ議員：返信があるのは50%ということだが、残り半分の返信のない方は、繰り返しお送りするしかないということか。

西澤区政推進課長：返信がない場合は、定期的に通知をするといった手段しかない状況。

くしだ議員：少なくともそういった案件を把握しているということは、特定空家になってしまうかもしれないが、次の段階への対応が可能であるという理解で良いか。

西澤区政推進課長：特定空家になる前の段階で何らかの対応ができるように、こちらでも通知を送っているところだが、所有者の方もどうやったら解消できるのかといった点がわからない部分もあると思う。今、局でもワンストップ窓口で様々な方のご相談に応じたり、相続になる前の段階でいろいろ考えられるようにということに取り組んでいる。あとは、例えば空家相談会など何かしらPRをしながら、皆さんに空家になる前の段階で、取り組んでいただけるように進めていければなと思っている。

佐藤議員：私も空家について何件も相談を受けて、建築局と何度もやり取りしている。特定空家などは、例えば認定されているものの一覧表をいただければありがたい。公表しているのであれば教えてほしい。

西澤区政推進課長：個人情報保護上、特定空家に認定されているかどうかということ自体を公表することが難しく、一覧でお渡しするのは困難な状況。

佐藤議員：地域の方から相談を受けることがあるため情報があると助かるが状況は理解した。

増永議員：「旭ふれあい区民まつり（P13）」について、出店したいという方も多くいらっしゃる中で、どのように手を挙げていいのか分からないという話も聞く。出店している店舗を見ると、鶴ヶ峰の方が多い印象を毎回受ける。広く色々な方が手を上げやすいような周知方法や出店のスキームだとよいと思う。今年度は周知方法やスケジュールについて伺いたい。

露木昇地域振興課長：区商連を通じて出店の店舗の依頼・選定をしている。その際、特定の地区に偏りのないようお願いしている。旭区の区商連に加入している7つの商店街に依頼をしており、令和6年度については希望ヶ丘の商店会からの出店もあった。昨年度は労力や体力的に難しいという点で見送られたというところもあった。区商連に加入している店舗のうち、鶴ヶ峰の商店街が近隣というところもあり出店いただいているというところもあるが、その他にもあさひの逸品の店舗にも出店いただいている。今年度についても、区商連に出店依頼をさせていただくとともに、二俣川にある旭区の料飲喫茶事業組合にもお声かけし、今のところ出店予定と聞いている。

増永議員：商店街に所属していなくても色々な店舗がある。旭区の皆さんが多様な方に触れられるような場所にしてもらいたいと思っているので、例えばオンラインで出店の応募ができるとか、一定の条件を満たせば出店できるとか、様々な方が手上げできるように検討するよう要望する。

「文化芸術による心の豊かさ推進事業（P14）」のうち読書活動推進事業について、書店とPOPを作るこの企画だが、前身のビブリオバトルの時からずっと開催場所が図書館である。行きやすさを考えるとやはり近くの子に限られてしまうと思う。様々な方に参加しやすくするために開催場所についても検討すべきと思う。例えば、二俣川駅の書店にブースを借りるとか工夫はできないか。考えを伺いたい。

露木地域振興課長：この講座の開催する目的の一つとして、図書館へ中高生世代の来館を促進するというものもある。POP制作を通じて、読書の楽しさなどを共有することを狙いとしている。旭図書館は会議室がないので隣の白根地区センターで開催しているが、回数を増やすとか、他のエリアで読書に関する様々な触れ合え

る機会を設けるなど、今後展開できればと考えている。

増永議員：図書館の来館促進が目的だとは、今回初めて聞いた。以前は読書に親しむ方を増やすことが目的だったと思う。それぞれの目的にあった施策にしていただけるとよい。

「あさひのつながり応援・発信事業（P11）」に関し、区民ライターの件だが、ぜひこの区民ライターの皆さんに横浜グリーンエキスポの促進について、幅広く SNS 等で発信することを依頼できると機運醸成にもつながると思う。やはり区民の方に近い皆さんが発信することで、より機運醸成にもつながると感じているが、その点について伺いたい。

西澤区政推進課長：区民ライターは令和 6 年度から始め、令和 6 年度が 13 名、7 年度が 8 名参加していただいた。今年度はフォローアップ講座を開催し、その中から約 8 名程度の方が参加する予定。区民ライターの方たちの記事には素敵な記事が多く、相鉄スタイルや X 等を通じていろいろ発信しているところだが、もっと多くの方に読んでいただけるよう、PR を引き続き行う。横浜グリーンエキスポについては開始前から盛り上げていただいたり、開始後も実際に区民ライターの方の視点で記事を書いていただくことによって、より多くの方が行ってみたいと思ってもらえるのではないかと考えている。今後の進め方について検討していく。

増永議員：実際にライターの皆さんと会場近くを一緒に視察するとか、近隣の方に周知する施策を一緒に検討するとか、ぜひやっていただきたい。合わせて SNS の活用について、自分の地域に特化したインスタグラマーやユーチューバーが増えているので、そういった方にもぜひ声をかけ、相乗効果で SNS とかも活用できるとよいと思うが、その検討状況について伺いたい。

西澤区政推進課長：Instagram は若い世代には一番発信力があると思っている。横浜グリーンエキスポと合わせて、旭区の魅力をどう発信していくかは非常に重要だと思っている。手法について現在検討中であり、ご意見も踏まえて効果的な発信方法を検討していく。

増永議員：ぜひよろしくお願ひしたい。

産後ケア事業について 1 つ課題だなと思っていることがある。産後ケアにおける事前面談について、18 区それぞれこども家庭

支援課による事前面談のうえ、産後ケアが必要かどうかを判断しているが、区によって面談による通やすさが異なるという話を聞くことがある。こども青少年局に確認したが、区ごとの面談回数と、実際にその方が産後ケアに行ったかどうかの割合は出してないという回答だった。旭区においては面談回数と、産後ケア事業者につながった回数をチェックしているのか伺いたい。

中山努こども家庭支援課長：旭区でも回数のチェックは今のところはしていない。ただし、産後ケア事業の趣旨をふまえ、この事業を利用したい方については、基本的にすべて面談はお受けして、よほどこの事業の趣旨から外れていない限りはお受けしている。

増永議員：当局にはきちんと数を出してほしいと要望しているので、区でも協力してほしい。鬱になるかどうかわからない方がほとんどなので、ぜひ幅広い方の話をよく聞いてほしい。

中山こども家庭支援課長：事業の趣旨をふまえ、なるべく広く捉えてできるだけ活用を進めていきたい。

こがゆ議員：今、市民局でデジタルプラットフォームを実施しているが、区と連携しているか伺いたい。これにより得られた情報を区とどう共有し、次の計画に反映させているのか教えていただきたい。

西澤区政推進課長：局と連携しながら進めている。デジタルプラットフォームでいただいた意見について、区でも関係部署に供覧するほか、予算策定時に参考にしている。

こがゆ議員：去年意見を見たが、人口減少とか郊外部の活性化とか、いろいろ意見を出していただいている。区の中で完結するようなものも結構あると思う。区の中でもいろいろ議論して、ぜひ反映していただきたい。国勢調査によると、以前は旭区の人口は25万人だったが、もうすでに24万人を切っている。主要駅の再開発等により交通利便性も高まっているにもかかわらず、人口減少が進んでいる。これは横浜市西部地域共通の課題だと思う。旭区として今後何かを行う予定があるか伺いたい。

西澤区政推進課長：国勢調査によると、横浜市全体の人口も微減だが、旭区は2.3%の減少と市全体の減少率よりも高い。鉄道延伸による社会増もあるが、やはり高齢者層が多いというところで自然

減が多いというのが大きいと思っている。人口減少が進行する中でどのように持続可能な地域運営をしていくかというのは本当に大きな課題であり、大変難しい問題だなと思っている。例えば上白根、若葉台、左近山等の団地エリアは人口減少率が非常に高い。廃校の活用と合わせて、団地の活性化も検討していきたい。上瀬谷のまちづくりの進行と合わせて、鶴ヶ峰のまちづくりや相鉄線沿線のまちづくりをしっかりと進めていきたいと思っている。また、横浜グリーンエクスポは旭区の魅力を発信する上で非常に重要な好機となるので、この機会に旭区の素晴らしさ、自然豊かで、住みやすいところであるということもきちんとお伝えしながら、住みやすい、住み続けたいと感じていただけるまちづくりを推進していきたいと考えている。

こがゆ議員：私もずいぶん長く住んでいるが、旭区は結構住みやすいまちだと思う。高齢化の進行もあり自然減はやむを得ず、流入人口の増、いわゆる社会増で補完をすることになると思う。空家の活用や、駅前再開発による高度利用により住みやすいまちを作る必要があると思うので検討してほしい。

「あさひのつながり応援・発信事業（P11）」で、地域データ活用支援事業を拡充するとの説明があったが、具体的に何をやって何を狙っているのか、どういう効果を狙っているのかという点を伺いたい。

岩澤健司福祉保健課長：地域福祉保健計画が掲げる見守り支えあう地域づくりを進めていくためには、地域住民だけではなく、民間企業や福祉法人等の多様な主体が得意分野をや専門性を生かして、地域の一員として活躍できるように支援していく必要があると考えている。既存の統計情報に加えて、地域のつながりづくりに資する地域資源に関する情報を集約して、誰しもが活用できる形で提供することで地域活動への参加を検討してもらい、多様な主体の地域参画と新たな活動の創出、事業立案機能及び地域支援機能の強化を目指している。具体的には、地区別の人口、世帯数、地形、交通施設、地域活動等を地図上にプロットし、それを地区別に例えば色付けをして、人口密度の高低が分かるような形でプロットしたものを提供したいと考えている。

こがゆ議員：目的を明確にしたうえで実施してほしい。

「自治会町内会等の地域活動支援事業（P12）」について、自治会加入率を上げていかなければいけないと思う。旭区の加入率は今 72%と聞いているが、実感としては参加している方は 72%もいないと思う。これを高めるために分析をした方がいいと思う。戸建ての方々は高く、集合住宅の方々は低いのではないかな。加入率を高めるためにはそういう分析をしていかないと加入率は上がらないと思う。さらに今は共働きが当たり前になり、リタイアした人しか自治会活動に参加しないと思う。そういう過去とは異なる状況の中で、自治会の活性化について考えてほしい。

「GREEN×EXPO 2027 参加促進事業（P26）」について、我々は旭区なので、旭区の人たちが行きやすい環境づくりをやらなければならない。旭区発の直通バスがないが、旭区民がもっとアクセスできるような方法を考えていただきたい。また、ズーラシアとのコラボグッズの話があったが、区役所や駅でも販売するなど行きたくなるような環境を作ることも必要ではないか。目的をふまえ、何ができるかということを考えていただきたい。

西澤区政推進課長：開催地元区として、旭区の皆様に行きたいと感じていただくことは非常に重要だと思っている。バスの発着なども含め関係機関とは日々調整をしている。区役所でも様々な盛り上げをして、楽しいイベントであることを皆さんに知っていただくことも重要である。近いので何度も行く予定であるというお声もいただいている。何か行きやすい手法がないのか引き続き関係機関と調整しながら何かプラスになることを模索していきたい。

こがゆ議員：例えば紙のチケットだが、横浜駅の 1 箇所ではしか売ってない。区役所や駅でも売ることを考えるなど工夫してもらいたい。また二俣川や鶴ヶ峰からバスで行けるとなれば、やはり行きやすい。バス会社との調整を検討してほしい。

木内議員：「認知症をみんなで支えるまちづくり事業（P22）」の認知症サポーター養成講座開催支援内に区とケアプラザの連絡会を開催とあるが、これはこの養成講座に関する連絡会なのか、全体的な区とケアプラザの共有なのかを教えてほしい。

関晃子高齢・障害支援課長：ケアプラザとは常日頃から様々な連絡会等は

行っているが、この部分に関しては本事業に関するもの。

木内議員：要望だが、認知症の方で、ちょっとケアプラザの対応にご不満を持たれている方もいる。うまく区とケアプラザで連携しながら丁寧に進めていってほしい。

「区民満足度向上事業（P29）」の行政対象暴力弁護士委任事業について、これは職員が窓口でハラスメントを受けた際のものだと思うが、これは旭区の件数が多いから等、何か背景が独自にあるものなのか教えていただきたい。

小林総務課長：これまで健康福祉局が、区の生活支援課のために局事業としてこのような取組があったが、それは生活支援課限りだった。実務では生活支援課のみならず各課の窓口でいろいろお声を頂戴することもあり今年度新規で設けた。

木内議員：旭区が特別結構お困りの方が多いということなのか。

小林総務課長：旭区が特段多いかどうかは不明だが、昨年度、実際に弁護士の方に相談して警察までつないだ件は発生している。

佐藤議員：「GREEN×EXPO 2027 参加促進事業（P26）」について、花の祭典でもあるのでご高齢の方は楽しめると思う。3つの季節にまたがるから最低でも3回行って、花を見るだけでも楽しくなる。区民の方に少なくとも3回行ってもらえるようにするためには、チケットを身近で購入できるよう検討してほしい。特に地元の旭区なので、ご高齢の方が見に行けるような環境を作ってもらえるとありがたい。

「地域安全安心普及推進事業（P7）」の中で、特殊詐欺を抑止するために、電話機器を貸与していると思うが、近年の実績を伺いたい。

露木地域振興課長：貸し出し件数は、令和5年度が98件、6年度が178件、7年度が126件、8年度はすでに21件。累計では、現在までで423件となっている。

佐藤議員：効果検証はできているのか。

露木地域振興課長：貸し出した方に対してアンケート行っているが、おおむね90%以上の方に満足していると回答いただいている。

佐藤議員：一時期、旭区が県内で特殊詐欺での被害額がナンバーワンになったことがあったが、それ以降、特に情報が不明である。区役所は何か情報を得ているのか伺いたい。

	露木地域振興課長：毎月の区連会の定例会で、旭警察署の生活安全課長から犯罪件数や交通事故の件数などを情報提供している。 佐藤議員：区連会も大切だが、地元選出議員にも情報提供をしていただくようお願いしたい。 堀口区長：今後はしっかりと共有したい。 【報告】 <u>1 寄附受納について</u> 質疑なし
備 考	会議の議事録作成については座長に一任で異議なし